

国語科学習指導案

授業日 令和7年 5月19日(月)

学習者 6年2組 29名

授業者 本間 啓介

1. 単元名 「笑うから楽しい／時計の時間と心の時間」

2. 単元の目標

◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(知(2)ア)

◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思C(1)ア)

○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知(1)カ)

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。(思C(1)オ)

3. 単元の評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 - 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	進んで事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。

4. 単元計画と学習評価(全8時間)

時	学習内容	学習評価(知・思・主)〈方法〉	個	全
1	・「笑うから楽しい」を筆者の考えと事例の関係に着目しながら読む。	・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(知)〈ノート・発言〉	○	○
2	・「時計の時間と心の時間」を読み、感想を交流する。 ・授業構成シートを使用し、学習計画を立てる。	・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(知)〈ノート・発言〉	○	○
3 4	・自分達で立てた計画に沿って、学習を進める。 ◎筆者が伝えたいことは何だろう？ ○時計の時間と心の時間とは何だろう？ ○取り上げている事例はいくつ？ ○どんなことを事例に挙げている？ ○論の展開の工夫は何だろう？	・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(知)〈ノート・交流〉 ・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(知)〈ノート・交流〉	○	
5	・読み取ったことを共有し、「時計の時間と心の時間」の理解を深める。	・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(思)〈ノート・発言〉		○
6 (本時)	・筆者はなぜ、これらの四つの事例を用いたのかについて考える。	・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(思)〈ノート・発言・交流〉	○	○
7 8	・自分達で考えたテーマに沿った意見文を書く。 ・書いた文章を読み合い、自分の考えを広げたり、深めたりする。 ・「学びのデザイン」の振り返りを行う。	・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(思)〈ノート・交流〉 ・進んで事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。(主)〈ノート・発言〉	○	○

5. 本時でめざす子どもの姿

「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。

【思】〈ノート・発言・交流〉

6. 仮説との関連

- ① 「学びのデザイン」をし、自己評価をすることで、主体的に学習しようとするための工夫（仮説1）
- ・「笑うから楽しい」の文章を使って、事例や主張などの語句の意味や説明的な文章の学習の仕方を確認することによって、どのような「学びのデザイン」をすべきか見通しをもてるようにする。
 - ・自分達で設定したテーマに沿って書く意見文に説得力をもたせるために、事例の使い方を教材から学ぶことを目的にすることで、筆者の工夫を読み取ろうと主体的に学習に取り組めるようにする。
 - ・ルーズブリックが載っている「学習デザインシート」を毎時間見ることによって、本時の到達目標を確認する。自分の目指すゴールを明確にすることで、主体的に学習に取り組めるようにする。
- ② 他者との関わり合いをもつことで、より「深い学び」を探求しようとするための手立て（仮説2）
- ・筆者が用いた四つの事例について、なぜこれらを選んだのかを個人で考えたり、全体で考えたりすることで、自分の意見文に用いる事例をどのように決めるかを考えられるようにする。

7. 本時の学習展開（6/8）

	児童の学習活動	評価□ 留意点※
導入 5分	○前時の学習を振り返る。 ○どのような事例を用いていたかを確認する。 ○四つの事例が本当に必要かを話し合う。 ④ どのような事例を選ぶと説得力が増すのだろうか。 ○本時の学習がどのように生かされるのか、「学習デザインシート」で確認する。	※4つの事例の中には、自分達にとってわかりやすいものもあれば、わかりにくいものがあることを確認することにより、筆者がなぜその事例を用いたのかという課題意識を引き出す。 ※本時の目標やゴールを確認することにより、どのように学習に取り組むかイメージをもたせる。
展開 35分	○個人思考 ・それぞれの事例のよさや特徴について考える。 ○全体交流 ・それぞれが考えたことを発表・説明したり、質問したりすることで理解を深める。 ○個人思考 ・全体交流を経て、自分の考えが最終的にどのようなになったのかをまとめる。 ・まとめたことを発表する。	※活動形態（個人、ペア、グループ）などは自分で選択・決定する。 ※困っている児童がいる場合には、同じことを考えている児童とつなげたり、何がわからないのかを明確にしたりすることによって、自分の考えをもてるようにする。 □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(思)〈ノート・発言・交流〉
終末 5分	○学習をまとめる。 ⑤ 事例に自分の体験談、調査や実験による事実などを用いると説得力が増す。 ○意見文を書くときに、どのような事例を使うか考える。	※どのような事例を用いるかを考えることで、次時への意欲へつなげる。